

特集

今そこにある、
ファミリー・
バイオレンス

Violence and Health

企画 | 藤沼 康樹

WHO（世界保健機関）が2002年に発表した『World Report on Violence and Health』以降、さまざまな暴力の問題が「健康問題」として重視されてきている。

しかし日本では、「健康問題としての暴力」に対応している医療者教育は十分とは言えない。本特集では、総合診療に関連した医療現場で遭遇する、さまざまな暴力の問題について、多角的に学べるように編集した。

今月の Questions

- Q1 通院女性患者の背後に「ファミリー・バイオレンス（FV）」を発見した時に留意することは?>>> 1470
- Q2 「ファミリー・バイオレンス」と言われる現象を扱う際の困難とは?>>> 1474
- Q3 暴力を「予防」するには、どんな方法があるか?>>> 1479
- Q4 パートナーからを含むDVを見逃さないために、
救急では、どのような時に「DV」を疑うべきでしょうか?>>> 1483
- Q5 プライマリ・ケア外来で、どのような時に、パートナーからを含むDVを疑うか?>>> 1488
- Q6 救急外来で「子ども虐待」を疑った場合に重要なことは?>>> 1492
- Q7 プライマリ・ケア外来で「子ども虐待」を見逃さないためには?>>> 1498
- Q8 虐待ケースに、心折れずに対応するための日常の工夫は?>>> 1502
- Q9 ファミリー・バイオレンス（DV、児童虐待、高齢者虐待など）に対して、
「ソーシャルワーカー」はどのような支援をしていますか?>>> 1507
- Q10 虐待防止に関する法制度には、どのようなものがありますか?
それは、どのようなしくみですか?>>> 1511
- Q11 「訪問看護」の現場における、利用者・家族から看護師への暴力が、
問題として表面化しにくい理由は何か?>>> 1516
- Q12 「指導」「教育」などとして、積極的に悪意を抱いてはおらず、
自覚なしにハラスメント行為を行っている場合を何と言うか?>>> 1523
- Q13 暴れる患者に、どのように対応すればいいかわかりません。
うしろから押さえつけばいいんですよね?>>> 1529
- Q14 患者・家族からの「クレーム」に対応する際に、念頭に置くべきことは?>>> 1534